

連合の春闘結果集計データにみる 賃上げの実態2018 (ポイント)

～賃金データ検討ワーキング・グループ報告～

本報告は、連合総研・賃金データ検討ワーキング・グループ（座長：齋藤潤国際基督教大学教養学部客員教授）において、連合から提供を受けた2018春季生活闘争第7回（最終）回答集計の賃金引上げ（平均賃金方式）データについて分析した結果をとりまとめたもので、今回は4回目の公表となります。

本稿は、ポイントのみのご紹介となっておりますので、詳しくは連合総研ホームページ上の研究・報告書アーカイブ (<https://rengo-soken.or.jp/work/>) または、報告書をご覧ください。

【合計の賃上げ率・金額でみた全般的な回答状況】

○2018春闘の回答状況（定昇とベアを合わせた合計の賃上げ率・金額）を組合員数で加重平均した組合員数ベースで見ると、単純集計ベースを上回っている。これは、組合員数が多い大規模な企業の賃上げ（合計）が中小の賃上げ（合計）よりも高いことを反映している。

図表1 賃上げ回答の平均値・中央値

	平均値		中央値	
	組合員数	単純集計	組合員数	単純集計
合計				
賃上げ率 (%)	2.06	1.03	2.09	1.00
賃上げ金額 (円)	5,934	4,709	5,782	4,665
定昇				
賃上げ率 (%)	1.63	1.58	1.65	1.60
賃上げ金額 (円)	4,745	4,061	4,650	4,067
ベア				
賃上げ率 (%)	0.42	0.48	0.41	0.38
賃上げ金額 (円)	1,277	1,205	1,328	1,000

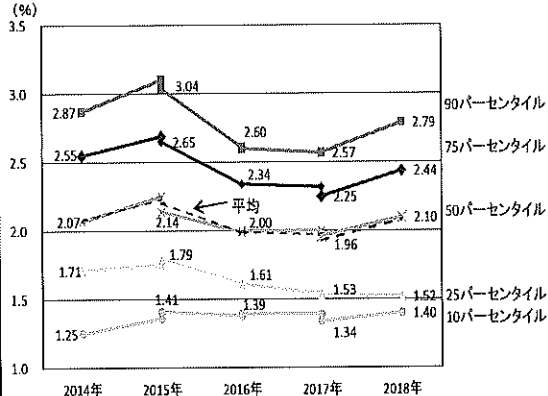
(注) 本報告の分析に際しては、賃上げの要求・回答など組合の記入事項をそのまま用いており、例えば、賃上げの合計と内訳の整合性から欠損値を補うことが可能な場合であっても、あえてそのまま用いている。そのため、分析結果が連合「回答集計結果」と厳密には一致しない。

【時系列比較でみた賃上げ率（合計）の分布】

○過去3回の報告書データも利用して、2014春闘以降の合計の賃上げ率の分布をみると、高い賃上げ率に位置する層の伸び率は鈍化した（90パーセンタイルで2014春闘から0.08%ポイントの低下）、低い賃上げ率に位置する層の伸び率は上昇した（10パーセン

タイルで2014春闘から0.15%ポイントの上昇）。50パーセンタイルと25パーセンタイルの差は拡大した。

図表2 各パーセンタイルの賃上げ率（合計）の推移
（2時点毎の共通サンプル、組合員数ベース）



(注) 1. パーセンタイルとは、データの分布を小さい数字から大きい数字に並べ、パーセント表示することによって、どこに位置するのかを測定する単位のこと。
2. 組合員数ベースは、春闘の回答状況を組合員数で加重平均したものの。

【規模別にみたベアの賃上げ率の動向】

○2018春闘のベアの賃上げ率においては、規模間の格差は明確でなくなっている。中央値でみれば規模が大きいほど高いベアの率となっているが、平均値や75パーセンタイル、90パーセンタイルでは中小企業（組合員数300人未満）の賃上げ率が大型企业（組合員数300人以上）を上回っている。

図表3 規模別の賃上げ動向
（ベアの賃上げ率、組合員数ベース）

